

2011年2月26日(土)

2010年度 防災教育チャレンジプラン

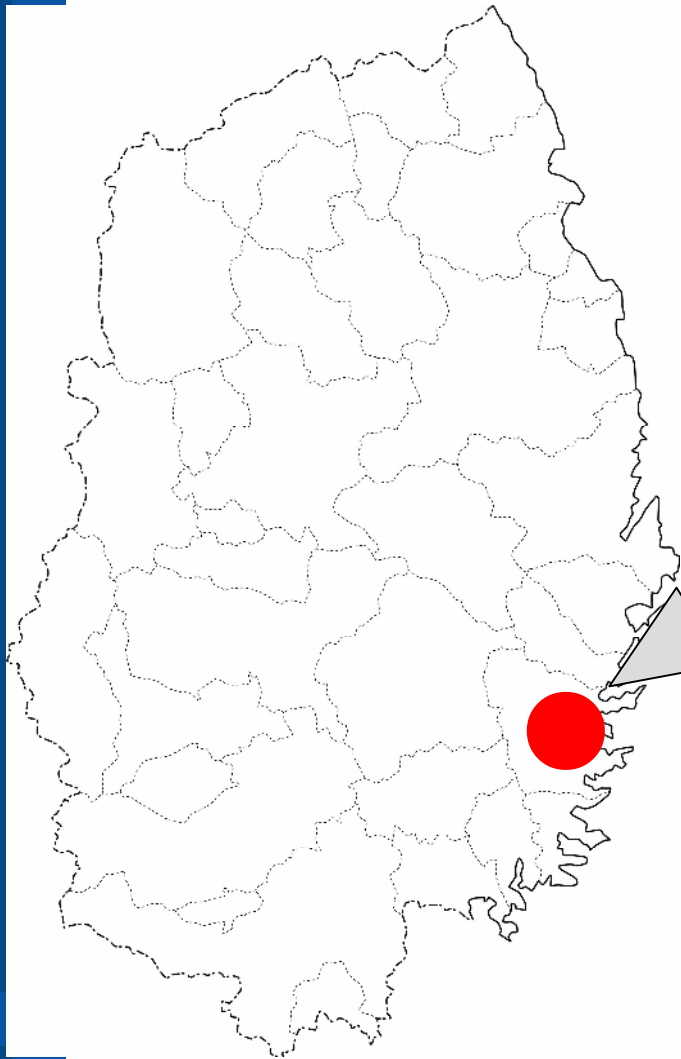
2010年度 防災教育チャレンジプラン成果発表

「EAST-レスキュー」

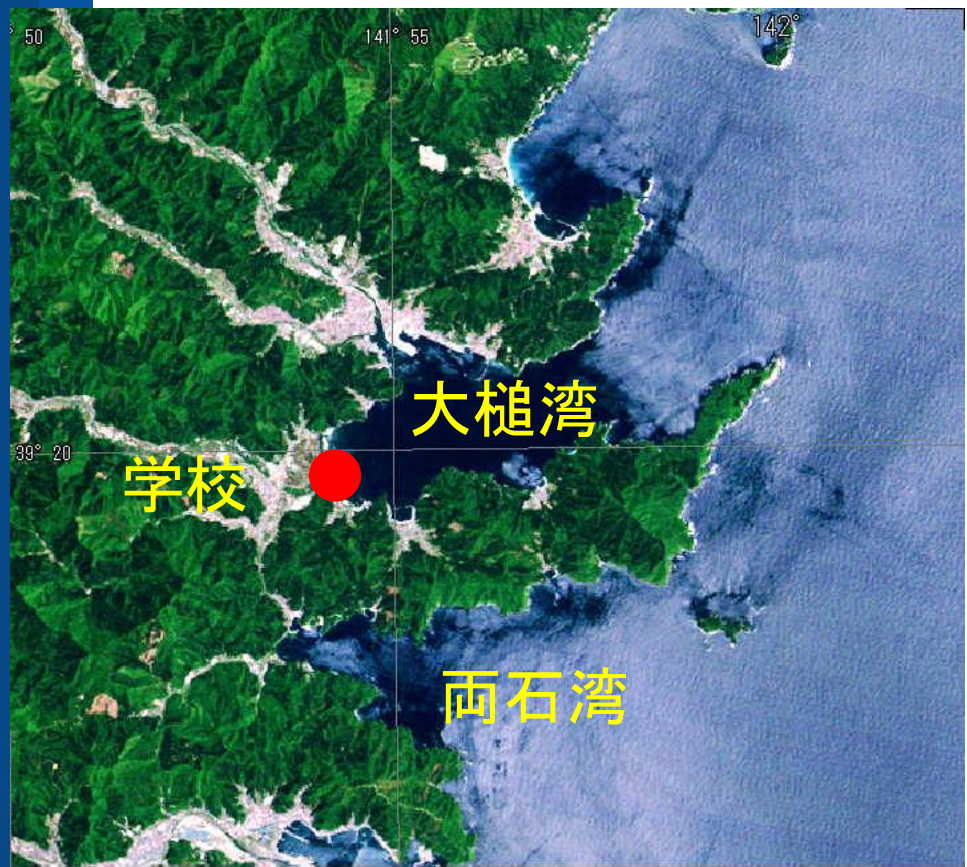
～地域と共に育む防災文化～

岩手県・釜石市立釜石東中学校 村上洋子

1 釜石東中学校の位置



全校生徒 217名
根浜海岸のすぐ近くにある
鵜住居小学校が隣接
築38年 耐震化が課題



岩手県／宇宙開発事業団 共同プロジェクト
衛星データ所有：米国防府
衛星データ提供： Space Imaging (R) ／ 宇宙開発事業団

0 1.0km



2 活動のきっかけ

1. 学校・地域の地理的状況
└ 津波災害の常襲地域
2. 釜石市防災支援事業
└ 防災教育プログラムの
開発・実践の協力校の指定
3. 地域の防災への取り組み

3 2010年度の活動内容

【本校の防災教育のねらい】

1. **自分の命を自分で守る**

2. 助けられる人から

助ける人へ

3. **防災文化の継承**

全校防災学習

「EAST-レスキュー」

East: 東中生

Assist: 手助け

Study: 学習する

Tsunami: 津波

E
A
S
T
レ
ス
キ
ュ
ー

防災オリエンテーション

第1弾 小中合同避難訓練

第2弾 宮古工業高校から学ぶ

第3弾 安否札1000枚配布1年目

第4弾 防災ボランティアースト

第5弾
EASTレスキュー隊員1級合格者

第1弾 小・中合同避難訓練

めがせ!!
防災レスキュー隊員一級!!

岩手日報 2010年6月15日(火)朝刊
(第3種郵便物認可)

地震津波 助け合って対処 小・中合同で避難訓練

釜石市鶴住居町の鶴 徒217人は14日、隣接する両校の合同避難訓練は、昨年度に引き続き2回目。震度5強の地震が発生して、津波の到達が予想されるなどの想定で実施した。

釜石市鶴住居町の鶴 徒217人は14日、隣接する両校の合同避難訓練は、昨年度に引き続き2回目。震度5強の地震が発生して、津波の到達が予想されるなどの想定で実施した。

子どもたちは指示に従って、速やかに約1分間、離れた避難場所のグランドホールへ向かった。釜石東中の保健委員が救護班を担当。両校のけがらを取りやかり、移動が滞り、小学生をおんぶした。鶴住居小児童会長の佐々木謙一君(6年)は「今日からも早く安全に避難できるように、みんな移動中のおしゃべりを少なくし



6/16(水) 2010年

隣同士の小中 サポート避難訓練 釜石

釜石市鶴住居町で隣接する鶴住居小(坂下俊彦校長、児童361人)と釜石東中(平野憲校長、生徒217人)の合同避難訓練が14日、両校などであり、地震による津波を想定して近くの福祉施設に避難した。

小学生は自力での避難を、中学生は安全確保のうえで小学生の避難を援助することを狙った。合同訓練は昨年に続き2回目。今回は、冠が怖い小学生と病気の小学生の2人を、中学生がおんぶして避難するなどした。講評で坂下校長は「中学生が小学生の避難を援助してくれてありがたい。あわてず、早く避難することを身につけられた訓練だと思う」と評価した。

運動靴をかぶり走って避難する小学生に追いつき、サポートするように避難場所へ急ぐ中学生。釜石市鶴住居町の鶴住居小学校

たい」と振り返り、釜石市東中保健委員長の小はげが人や小学生に優しく津波が来てもおかし

6月14日(月) 13:30~15:00
おこなった小・中合同避難訓練の新聞に掲載された。昨年度に続く2回目の避難訓練として、全校生徒のみならず、真剣な姿がありました。石の災害時には、若くは行進の姿に、はげが

第2弾 宮古工業高校から学ぶ



毎日新聞

手 岩手 2010年(平成22年)7月6日(火)

毎 日

ぼうさい甲子園 宮古工高が出前講座 高校の部で大賞

09年度の「ぼうさい甲子園」(毎日新聞社、兵庫県など主催)の高校の部で大賞に輝いた宮古市の県立宮古工業高校(藤原斉校長)の機械科3年生6人が5日、釜石市の釜石東中学校(平野憲校長)を訪れ、自作の津波模型を使って疑似津波実演をした。出前講座を受けた217人の全校生徒は「津波の怖さが分かった」と口をそろえた。

釜石東中 自作の模型使い疑似実演 生徒

宮古工業高校(右)が津波模型で浸水場所を指示し、生徒たちからため息が上がった。釜石東中学校で



の話がまとまった。課題研究津波模型班の出向いたのは機械科生徒ら。津波模型班は

「津波の怖さ分かった」

05年から順次宮古湾内など7地域8カ所の立体模型を作り、水を流して津波がどこで浸水するか、実演活動が続けてきた。

釜石東中では1万分の1の山田湾内の模型を使い、高さ4メートルと8メートルに見立てた津波を発生させた。水が防潮堤を越えると、生徒からどよめきが上がった。3年の小林平良君(17)は「高い場所へ逃げるのが一番。家族にも伝えたい」と熱心に見入った。宮古工業高校の大内慎之介君(17)は「防災意識を少しは高めてくれたと思う」と話した。

【鬼山親芳】

第3弾 安否札1000枚配布

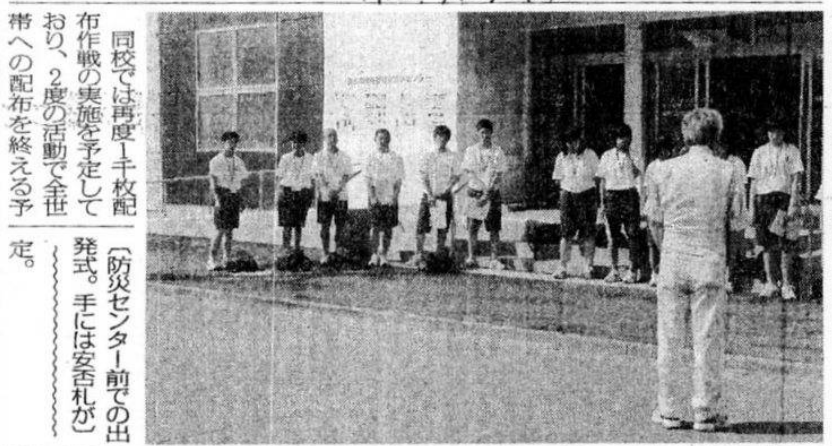
東海新聞
釜石東中
「ほろろ」甲子園で優
秀賞を受けた釜石東中
校（平野憲校長、児童2
17人）の「安否札」配
布活動。今年は1千枚配
布大作戦と名付け、全校
生徒が取り組み、24日午
前、生徒らが各世帯を訪
問して手渡した。
安否札は、災害時、避
難する際に玄関などに掲
示、無事に避難している
ことを町内会の人たちに
知らせるもので、大きき
はA4判。生徒らが「避
難しました」の文字を書
き、ラミネート加工した。
昨年、学校のボランティア
グループが取り組んだ
ものが優秀賞を受けた。

今年、全校生徒で取り
組み、鶴住居地区の全世
帯に配布することを決
め、この日の配布活動と
なった。

生徒らは、地区ごとに
分かれ、町内会員の協力
も得て各世帯をまわり、
手作りの安否札を手渡し
た。

安否札1千枚配布 全校生徒が取り組む

H22 7.27.(Y)



同校では再度1千枚配
布大作戦の実施を予定して
おり、2度の活動で全世
帯への配布を終える予
定。

（防災センター前での出
発式。手には安否札が）



第4弾 防災ボランティアスト

- 生徒会・委員会活動
- 全校縦割り10グループ

- ①防災マップづくり ②救急搬送
- ③応急処置 ④水上救助 ⑤炊き出し
- ⑥防火練習 ⑦両石地区フィールドワーク
- ⑧片岸地区フィールドワーク ⑨風水害
- ⑩海難救助

第4弾 防災ボランティアースト

☑ ①防災マップづくり

学校周辺の安全確認
作った地図は、地域
に配布予定



町内会長さん
の案内



第4弾 防災ボランティアースト

☑️②救急搬送



けがの程度により、運ぶ時の注意や運び方を学んだ。

釜石市消防署の協力

第4弾 防災ボランティアースト

☑️ ③ 応急処置



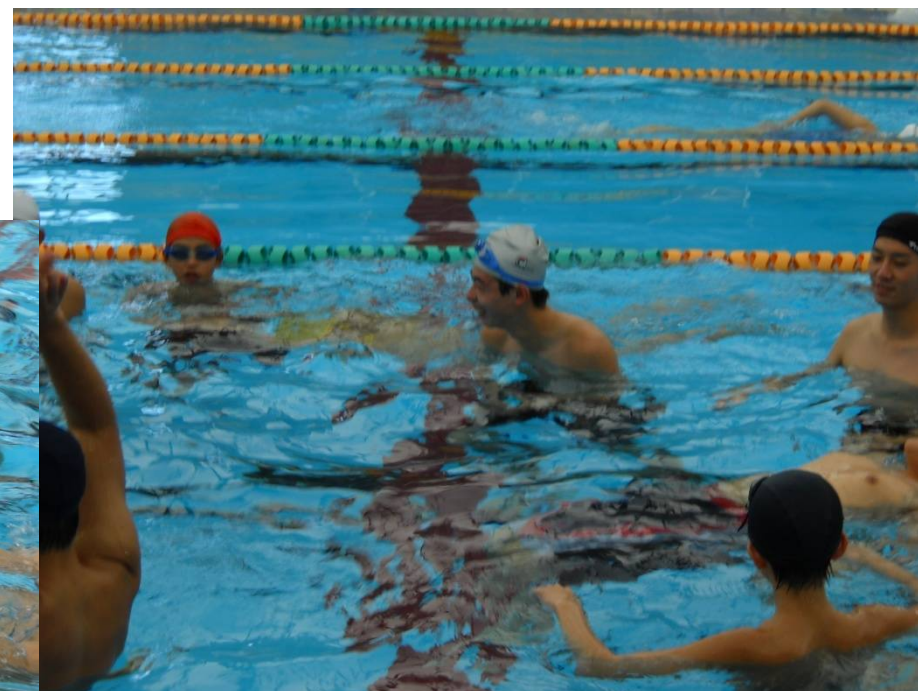
日赤釜石
地区安全
奉仕団



三角巾1枚で、傷を手当する、
中学生だって役に立つよ。三角
巾をかばんにいつも入れて、持
ち歩いています。

第4弾 防災ボランティアースト

☑④水上救助



背後から救助する

市営プールで学ぶ
水の事故を防ぐ

第4弾 防災ボランティアースト

☑ ⑤炊き出し・・・釜石市赤十字奉仕団・市役所福祉



課・宝来館(根浜海岸避難ビル)・東部漁協女性部

米・水・梅干しを入れて、大釜で炊く。1週間は持つ。

ハイゼックスでご飯を炊く



第4弾 防災ボランティアスト

⑥ 防火練習

釜石消防団第6分団

初期消火が大切



- ☑ 学校の池から
- ☑ バケツリレー



第4弾 防災ボランティアスト

⑦ 両石地区フィールドワーク



「いのちてんでんこ」を語り継ぐことの大切さを説く、両石町内会長さん

明治三陸大津波で村民900人中780人亡くなる。今でも津波記念碑を大切にし、親から子へ、そして孫へと語り継いでいる。

■ 釜石市両石町両石 国道脇



両石海嘯記念碑



海嘯記念碑



津波記念碑

第4弾 防災ボランティアスト

☑️⑧片岸地区フィールドワーク



竹と毛布で担架
つくりを体験

ここまで津波が
押し寄せた



第4弾 防災ボランティアースト

⑨風水害

盛岡気象台の出前講座



風水害の危険は、どこでもある。天気予報チェック

雷が鳴っている時の電話は危険！



第4弾 防災ボランティアスト

☑ ⑩海難救助

釜石海上保安部



海でおぼれている人を助
けるときのロープ結び



心肺蘇生法も
学びました

第5弾

EASTレスキュー隊員1級合格者

- ・ 生徒の励みとするための学校独自の1級から5級の**認定制度**(認定証・名札)
- ・ 防災の学習や生徒会活動の活動内容や感想を記録
- ・ 積極的に地域のボランティア活動や行事に参加した生徒には、**1, 2級**を認定

第5弾

EASTレスキュー隊員1級合格者

認 定 証

第8号

EAST レスキュー隊員1級

釜石市立釜石東中学校

3年B組35番 梁田麻佳

あなたは、釜石東中学校において、津波防災について学び、助けられる人から助ける人に成長しました。ここにその功績を認め、EASTレスキュー隊員1級を認定します。隊員として今後もぬくもりのある活動を期待します。

平成22年 8月30日

釜石市立釜石東中学校

校長 平野 憲



•ボランティア活動への
関心と意欲の高揚

•地域の活動への積極
的な参加

最後に・・・

これまでの活動を終えて

- 防災をテーマとして、小学生・高校生・地域の方・専門家との交流を図ることができた。
- 5つのプログラムを設定することで、生徒の意欲や積極性を引き出すことができた。
- 実際に避難を必要とする災害が起きたときの対応が十分とはいえない。学校・地域・行政の連携が必要である。

「EAST-レスキュー」

～地域と共に育む防災文化～



終